

ここが聞きたい!!

7名が登壇

明新橋の歩道の安全対策！ 屋代川に架かる橋梁の安全対策！

今元直寛 議員

問 明新橋の非常に狭い歩道を歩行者、自転車、電動車、車椅子等が利用して危険である。歩道を拡張し安全柵を設置するか、専用歩道橋を新設する等安全対策を講じるべきではないか。



答 (町長) 平成2年度に架け替えられた橋であるが、近年では車椅子2台と歩行者2人がすれ違い可能な歩道もある。明新橋は改良済み区間となっているが、歩道の拡幅、改良は道路管理者である山口県に強く要望する。

問 屋代川の橋梁は老朽橋が多い。このままでは地震、洪水等の大災害には耐えられないと思われる。早急に耐震、耐久調査を実施し安全策を提示して欲しい。

答 (町長) 屋代川に架かる橋を含め、全町の道路橋の損傷を早期発見し安心、安全な交通の確保と共に、被害防止のための点検調査が本年度を目途に業務委託を実施中である。点検中に緊急に補修の必要のある橋梁については今年度予算の範囲で実施する。



明新橋

役場職員の町内居住対策について！

中村美子 議員

問 本町は毎年人口が減少しており、定住化対策として種々の政策を実施している中で、町の職員でありながら町内に居住していない町職員が大勢いる。町民税はもちろん消費などにも大きな影響を与えていると思うが、町外居住の職員は何人いるか。また大きな災害が発生した場合、職員招集の遅れなど業務に支障が出るのではないかと。次に居住の自由は憲法に保障されているので町内居住を義務付ける事が出来ないが、人口減少の歯止め対策の一つとして、何ら



かの対策を早急に取り組んでほしい。

答 (町長) 町外居住職員数は、本年4月1日現在で公営企業局職員を除いて29人である。元々町外に住所を有する職員は14人、うち保健師等専門職が10人で、残り15人は町内に住んでいたが、結婚等で町外に転出したものである。

災害発生時の対策については、通常は支障のないように職員体制を整えている。けれど最前線に立つべき町職員が町内に居住することは重要であると職員は認識すべきである。町内に居住することについての重要性を受け止め、啓発していきたい。

